



THE 市町支援通信

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～



子ども心身発達医療センターは、途切れのない支援システムの構築を推進しています。

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援をめざし、子ども心身発達医療センターは多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ①発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）・機能の設置
- ②「CLM（チェック・リスト・in 三重）と個別の指導計画」による保育所・幼稚園での早期発見・支援
*「CLMと個別の指導計画」は、子どもの育ちを見極め、適切な支援を行うためのツールです。
- ③みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 特集

令和元年12月15日、309人の方々のご参加を得て、三重県男女共同参画センターフレンテみえ多目的ホールで「令和元年度『CLMと個別の指導計画』実践報告会」を行いました。

三重県子ども・福祉部 大橋範秀部長の挨拶です。（要旨）

本日は、「CLMと個別の指導計画」実践報告会にご参加いただきありがとうございます。県内外から多数の皆様にお集まりいただいたことを感謝申し上げます。日々皆様には、保育、教育、福祉、医療、行政の分野で、子どもの健やかな発達や育ちに関してご尽力いただいていることに敬意と感謝を申し上げます。私が申し上げるまでもなく、最近の子どもを巡る情勢は、心と身体に少し課題を抱える子どもさんが増えているだけではなく、その家庭を取り巻くコミュニティといいますか、環境も我々が子どもの時よりは許容範囲が狭くなったように感じます。本当に子どもたちは、生きづらさ、育ちづらさを感じる場面が増えているように思います。

そのような中、三重県は、元々子どもの心身の発達にあすなる学園、また草の実りハビリテーションセンター等で先進的な活動をしておりました。センターという言葉が示すことは、唯一無二ということではなく、やはりセンターがセンターとして機能するためには、地域、現場の皆様のご協力とご努力が不可欠になっております。

このセンターと皆様を繋ぐ一つのツールが、「CLMと個別の指導計画」でございます。開発した私どもとしては、これが最高だと思っています。できるだけ多くの市、町、できるだけ多くの現場で導入していただくことを目指していますが、子どもの健やかな育ち、発達に対してエビデンスに基づいた子どもへのケアや支援というものが広がれば意義があると我々は思っています。

今日のこの実践報告会が気づきや情報共有の場として意義のあるものになれば、と考えております。加えまして、センターは皆様と共にこれからも発展していくことを目指しておりますので、そのためには皆様のご理解とご協力が不可欠であります。



（大橋部長）



（表彰式：金井センター長）

今後ともセンターへのご理解とご協力をお願い申し上げます。

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 事例報告

川越町

担任とA君の気持ちがぴったりに

岐阜県高山市

「かして」「いいよ」をきっかけに園で育てたAくん

＜担任の変化と成長＞

- ・要因を振り返り、Aくんへの具体的な支援方法がわかった。
- ・シール評価、アイコンタクト、役割など、Aくんにはわかるほめ方をしたら伝わった。
- ・子ども達にわかりやすいルールを明確にし、できたらほめることが有効。
- ・一人ひとりの成長が、クラス全体の成長につながるようになった。
- ・一人ひとりが指摘しあわず、クラスにまともりがうまれ、落ち着いた。

「ほめるポイント」を作ることで
Aくんやクラスのみんなに伝わった

園の変化と成果

- 一人ひとりを観て効果的な支援
- わかりやすい環境づくり
- 保護者の気持ちに寄り添う支援
- 困っているのは子ども

達成感

Aくんの成長 保育者の成長

●担任に認めてほしい5歳児Aくん。
片づけの時に絵本係と片づけコール係をすることにより、担任からほめられ、その“ほめ”のポイントがAくんの心に届いたことで、お互いの思いがピッタリかみ合いました。

●友だちからおもちゃを取ってしまいトラブルが多かった3歳児Aくん。スモールステップの支援を積み重ねたところ、Aくんは友だちとやりとりができ、クラスのみんまと遊べるようになりました。取り組みを通して、担任と愛着関係を築き、排泄や着脱もできるようになりました。

志摩市

Aくんの発達に見合った個別あそび

Aくんの支援のために整えたこと

- ① 構造化した個室で個別あそびをした
- ② 絵カードのスケジュール表を事前に知らせた
- ③ おもちゃは、興味のあるドラえもんを取り入れた
- ④ 本人の発達に合ったおもちゃを使い、あそび方を教えた
- ⑤ わかりやすく端的な話し方、ぶれない対応の仕方を主任から加配保育士にバトンタッチをした

加配保育士とあそべるようになった！

●自由あそびの時、部屋から飛び出しが多かった知的発達がゆっくりな3歳児Aくん。好きなキャラクターと、発達に見合ったおもちゃを使い、加配の先生が遊び方を教えました。教わることでAくんは自らあそべるようになり、回数を重ねるうちに友だちとも一緒にあそぶ姿が見られるようになりました。

尾鷲市

CLMの取り組みを運動会の発表の場へ

森のくまさんサーキット遊びの内容（ステップ3）

- ①「キラキラ橋」か「お花畑の橋」をわたる
- 平均台の橋
- ②花をとってさす
- ③くまさんと握手
- 子どもたちのアイデア
- ④トンネルをくぐる
- ⑤ネックスを拾って宝箱に入れる
- ⑥とび箱(お山)をどぶ

●平均台が怖くて渡れない5歳児Aさん。
♪森のくまさん♪のストーリーに合わせたサーキットあそびに楽しく取り組みました。高さ3mmからスタートし、運動会では自ら平均台を渡れるようになりました。クラスの子どもたちの主体的な意見によって、クラス全体のやる気と自信が育ちました。

ワクワク！ 楽しい保育をご一緒に！！



せんせいとふたりで遊ぼう！

担任の願い：

友だちとあそべるようになってほしいな…

Aさんの姿

- ・乗り物や乗り物図鑑が好きで、友だちが先に見ていると怒る
- ・ミニカーを並べて遊ぶことが好き
- ・「トイレに行きましょう」と言ってもトイレに行かない

クラスの様子

- ・年中組 25名
- ・担任が「～しましょう」と言っても、活動に入るまでに時間がかかる

4点がつくCLM項目：(1)、(3)、(7)、(10)、(12)

名前：A (4歳児)

チェック項目

(12) 同じあそびしか行わず、あそびが発展しない

エピソード

自由あそびの時、乗り物図鑑を見たりミニカーを並べたりして、一人遊びを毎日している

要因

- ① 他の遊びを知らない
- ② 遊び方がわからない
- ③ モチベーションが上がらない

目標 朝の自由あそびの時、担任と一緒に5分間 1対1で遊ぶことができる (ステップ1)

具体的な指導方法

計画・評価

短い時間で
10日間毎日

<環境の整えとクラス全体の支援>

<個別の支援>

(最終目標)
友だちといろいろなあそびができるようになる

【環境】

- ・ブロックコーナーを設定する
- ・ブロック(トラック、車、お家、木、等)の完成形の写真を置く(他の子もできるように、数や種類は多めに置いておく)
- ・手持ち用『遊ぶ時のお約束表』を準備する

他の子も
ブロック
コーナー
であそ
べる

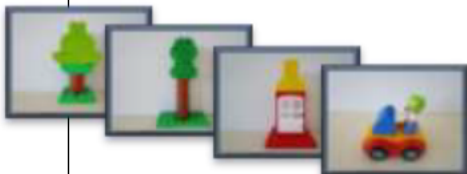
【遊ぶ時のお約束】

先生と順番に作ります

- ① 先生がします
「Aさんどうぞ」
- ② Aさんがします
「〇〇先生どうぞ」



順番とやりとりを意識



【前日】

- ・自由あそびの時「明日から、朝の支度が終わったら、先生と一緒にブロックで作って遊ぼうね」と、担任が選んだ完成形の写真を見せて伝える
- ・「Aさん頑張りカード」にシールが貼れることを伝える

完成形の写真を見せ、見通しをつける

Aくんの発達と興味関心に合わせて、まずは担任が何を作るか選んでおく

【当日】

- ・完成形の写真を見せながら一緒に作って遊ぶ
- ・Aの見本となるよう、担任が先にやって見せる
- ・「Aさん頑張りカード」にシールを貼らせてほめ、「明日もしようね」とカードを預かる

先生が先にすることで、すぐ後にするAさんの見本となり、わかりやすい

<最終日>

- ・「Aさん頑張りカード」は、最終日の降園時にAさんにプレゼントする

保護者の方にもほめてもらえる



評価

「頑張りカード」やシールもAくんの好きなものにする



担任の声： ブロックコーナーでAくんと遊んでいると、他のお友だちもたくさん近づいてきてくれました。同じ場所で同じあそびをするようになり、今では、Aくんとお友だちと一緒に遊ぶようになりました。完成形の写真をたくさん準備しておいてよかったです。

全国から注目 学会発表報告！

三重県の途切れのない発達支援システム ～「CLMと個別の指導計画」～

日本LD学会第28回大会(東京) 11/9・10

自主シンポジウム「保育所・幼稚園における子どもの発達支援と親支援」を企画し、「CLMと個別の指導計画」(尾鷲市・多気町)とペアレントサポートプログラム(NPO法人えじそんくらぶ)の実践事例を報告し、参加者と検討を深めました。また、「通常学級での不適切な行動を予防するために」(東員町)のポスター発表を行いました。これらの報告を通して、三重県の途切れのない発達支援システムの有効性を示すことができました。



参加者からは、三重県全体で取り組む支援システムへの称賛、「CLMと個別の指導計画」を活用したクラス全体で育ち合える環境設定の重要性、三重県の保育者の目利き力・腕利き力の高さなどを評価いただき、三重県方式の先駆的な取り組みに改めて気を引き締めたところです。

第60回日本児童青年精神医学会総会(沖縄) 12/5～7

「保育所における選択性緘黙児への支援～『CLMと個別の指導計画』を活用した担任との愛着形成～」と題し、喋らせることよりも担任とのあそびによる安心できる関係づくりのプランを実践した結果、1年後に話せるようになり、小学校でも安定している経過を報告しました。

要因分析に基づく根拠のある支援を担任が継続的に行うこと、「今日も楽しかった」と子どもが思える保育所での支援が何より有効であると評価していただきました。



●センターからのお知らせ

令和2年4月からの初診受付は、令和2年1月7日9時から専用ダイヤルにて受け付けます。

予約お申し込みの電話が集中すると予想されます。

通話中の場合は、恐れ入りますが再度おかけ直してください。

予約専用ダイヤル：059-253-2020

令和元年(2019年)12月19日

＜発行＞三重県立子ども心身発達医療センター 発達総合支援部 地域支援課

〒514-0125 三重県津市大里窪田町 340 番 5

電話番号 059-253-2000(代) FAX 059-253-2029

MAIL: childc@pref.mie.lg.jp URL: <http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/>